

会議名	平成２８年度第２回西尾市図書館協議会
日 時	平成２８年１０月１２日（水）午後３時～４時３０分
場 所	西尾市立図書館 会議室
出席者	尾崎会長、赤堀副会長、浅井委員、高橋委員、伊奈委員、山下委員、大須賀委員、鳥山委員
市係等出席者	岩瀬教育部長、今井図書館長、原田館長補佐、生田主任主査
協議会の中で出されたことは以下のとおり。 １ あいさつ 尾崎会長 ２ 議題 （１）第１１回にしお本まつりについて 今年度のにしお本まつりの行事内容について、事務局から報告。（資料１） 図書館のメインの行事としては、絵本作家の長野ヒデ子さんの講演会と西尾市の特産「ばら」をテーマにしたストーリーテリングと朗読、音楽の行事。駐車場も混雑するので、岩瀬文庫と日程を調整し行事が重ならないようにした。今年は「第３１回国民文化祭・あいち」の中のひとつのイベントとして登録されている。 質問 講演会の申込み状況はどんなか。 → 今朝までの申込みで、定員８０人に対し６２人の申込みがあった。８日からの申込みなので、順調な申込み状況だと思う。有名な絵本作家なので、市外からの問合せや申込みがある。 質問 対象が子育て中の親と子とあるが、親子での参加はどれくらいあるのか。実演もあると思うので、せっかくなので大人だけでなく子どもの参加もあると良いのでは。保育園等への呼びかけはしたのか。 → 親子が対象ということで、申込みのときに子どもの年齢をお聞きし、それを講師にお伝えする。それによってお話を考えてくださるとのことである。 質問 親と子が対象ということは、大人だけでの参加はダメなのか。 → 大人だけでの参加でも大丈夫です。 質問 本の販売もあるということだが、どこがするのか。 → 講演会をこの会議室で行い、その後に視聴覚室でサイン会を予定している。販売する本は講師が直接ここに送ってくださり、ボランティアが販売をする。本を購入された方に整理券をお渡しし、サインをしていただく予定である。 質問 定員をオーバーしても、ある程度は受けてもらえるのか。 → 例年８０人の定員のものは、当日の欠席がある場合や椅子を少し追加すれば入れるということで、９０人くらいまではチケットを配布する予定である。 質問 講演の形はいつものように横長ですか。横長のほうが講師との距離感が短いので。 → はい。それで行う予定です。 意見 去年、図書館の入口にタイムスケジュールの看板を作ってください、あれがとても好評だったので今年も是非欲しい。（駐車場からの）階段のあたりにもあるとよい。今行くのとどれが見られるとわかるので。チラシだと細かすぎて、どれが何時からかというのがわかりにくいので、入口にああいったものがあるととても見やすい。できればもう一つ駐車場くらいにあるとよい。岩瀬文庫か図書館かどちらに行こうか迷う人もいる。 意見 サンジョルディの日に贈るものは本と一本のバラということで、西尾市のために作ってくれたようなものだ。茨木のり子の詩集「汲む」の中にも「薔薇」という詩がある。縦だけではなく横の関連も持ちながらやっていって頂きたい。 意見 図書館で作成したチラシがとても良い。だんだんポスター(チラシ)が素敵になって	

きている。

(2) 利用者アンケートについて

事務局より説明。(資料2)。

今年度のアンケートは、「西尾市子ども読書の日」が4月23日であるという周知も兼ねて「問3」を設けた。また、「問4」は平成26年度にも同じ設問でアンケートを取ったが、セルフ貸出機や予約本のメール連絡等の周知がまだ完全ではないように思われるため、前回とどれくらい数字が変わったかを知りたいために設けた。裏面の入学前の子どもさんがいる方に問うアンケート内容は、子ども読書活動推進計画(第三次)の小学生に行ったアンケートと同じものになる。

質問 小学校入学前の子どもさんがいるという設問については、子どもがいない人は答えてはいけないのか。孫や甥姪がいる人はどうなるか。

→ そのあたりが分かりにくいかと思うので、「家庭に子どもがいる方」というようにして、子どもや孫がいる人に答えていただければよいかと思う。問5の「子ども」に孫も含むという表記にした方がよいか。

意見 孫まで入れる必要があるかどうかとも思う。

質問 おやこ読書ノートとはどういうものだったか。

→ 資料5のアンケートに写真が載っているが、図書館と希望された園で配布している。今年度から、こども版と幼児版に分け、自分で読める子はこども版、大人に読んでもらう子は幼児版というように、二種類を作成した。

質問 図書館に来た子にだけに渡すものか。

→ はい。ほかに、希望された保育園・幼稚園でも配布はしている。

質問 問5の設問は昨年のアンケートにもあったのか。もし昨年もあって、今年は孫を入れたら変わってしまう。

→ 昨年はなかった。今年、裏面の設問に行くために入れたものである。

意見 今は働くお母さんが多くて、おじいさん、おばあさんが孫を図書館に連れて行く人も多い。親に限らず、子どもに関わる人が記入できる文言の方がよいのではと思う。家庭に子どもがいるかという聞き方はどうか。

意見 子どもがいるかと聞き、そのあとに子か孫か曾孫かとさらに問うとか。孫を面倒みてもらっている共働きの親も多いので。

意見 幡豆図書館は児童館が併設しているので、保育園が終わった後に孫を連れて来る人が多い。親子が一番望ましいとは思うが。

→ 問5に、子どもか孫かという子どもがいるかという問いを加えるようにしたらどうか。

意見 そこまでは要らないと思う。保育園前の子どもの様子が知りたいのだから、それがお父さんかおじいちゃんかは必要ないと思う。

→ 問1の年齢を見て、子どもか孫かはわかると思う。

意見 今は若くてもお孫さんがいる人もあるので、それは難しいと思う。

→ では問5を、「あなたの家庭には小学校入学前の子どもさんがいるか」という問いにしたらどうか。

意見 それならよいのではないか。

→ ではそのようにして、おやこ読書ノートの写真を同じように入れるようにする。

質問 このおやこ読書ノートは西尾市独自のものか。

→ はい。では問5の設問をもう少し考え、「家庭に子どもがいるか」という聞き方に変えていこうと思うがいかがか。

意見 外孫だと家庭にいるとは言わない。すぐ近くに住んでいて面倒は見ているが同居していない孫もいる。

意見 問8・9・10で、自分が親だった時の子どものことを答えているのか、今現在の孫のことを言っているのかわからないのでは。

→ 子どもも孫もいる人もある。

質問 毎年どれくらいの回収率か。

→ 昨年は1, 328人、26年度は1, 432人、25年度は1, 250人だった。

質問 入学前の子どものこれを調べてどうしたいのか。

→ 子ども読書活動推進計画（第三次）に反映できればと思っている。

意見 今の子どもの家庭での読書環境を知りたいということだね。では、今の親に聞けばよい。今の環境ではない、昔のことを書かれてもややこしくなるだけではないか。

→ では、子ども読書活動推進計画はコンサルタント会社にも策定を委託しており、アンケートも協力してもらっているので、そこでも相談をしてどんな形にするかを決めさせていただいてよろしいか。この図書館で取るアンケートの内容は、その後どのように計画に反映していくかが変わってくることなので、相談させていただき範囲を絞りたい。

質問 コンサルタント会社に相談され、この年齢がアンケートをやっていないからここでやろうということになったのか。

→ 子ども読書活動推進計画の推進委員会の時にも意見が出たが、前回のアンケートは小・中学校だけで、高校生の部分が薄いということで今回は高校生を入れた。また、小学生未満の部分も取っていないのでそれをどうしようかということになり、図書館のアンケートで意見をもらったらどうかということで、今回に至った。

意見 外山滋比古先生も、小学校に入る前までの読書で、その後に本が好きになるかどうかが変わるということをおっしゃっている。また、父母の影響で本が好きになったという人より、祖父母の影響の方が大きいことを聞く。図書館に来て、本に触れる楽しさを教えることが大切なのだが、親だと期待が大きすぎて子どもはプレッシャーに感じる。

意見 小学校入学前の子どもがいる人に、問8の2以降の設問はおかしくないか。また、問10の国語力がついたかというのは答えられないのではないか。就学前の子どもにとるのなら、もう少し中身を考えないといけないのでは。

→ 問8は、かっこで「行いたいと思いますか」と入れてあり、2～3歳の子どもを持つお母さんがいつくらいまでと考えているのかを聞いている。

意見 それでは、「行いましたか」を消して「行いたいと思いますか」だけでよいのではないか。

意見 そうしたら、問10は「影響があると思いますか」にした方がよくないか。

意見 このアンケートを見たときに、私は未就学児の子どもを持つ親がその子ではなく、小学生以上の兄弟のことを答えるアンケートなのかと思った。しかし今、話を聞いていたら入学前の子どものことを答えるアンケートだと分かった。項目を同じにしておいた方が後の集計がしやすいのかどうか。

→ 今言われたのは、入学前の子どものことを聞きたいアンケートということが分かりにくい、ということでよいか。

委員 はい。

事務局 小学校以上のアンケートと、この図書館アンケートを同じ形でとった方がよいかどうか、また図書館アンケートの文言でわかりにくい箇所を相談したい。

意見 本当の目的は就学前の子どものアンケートを取りたいということではないか。だとしたら、それに統一した設問にした方がよいと思う。

意見 学校に依頼したアンケートの数はすごい数になっているはずだ。それを考えると入学前の子どもに対してのアンケートをやる必要があるかどうか。

→ 子ども読書推進委員会というのがあり、その中で幼児の傾向や状況を知りたいという意見があった。計画を作るために現状を調査してそれに対してどう施策を作っていくかというところをコンサルがまとめていくという形になっており、アンケートの中身を何でとるかというのは、そこで定まっているわけではない。

意見 小・中学生を持っている親も幼児教育を意識してアンケートに答えると思う。

→ このアンケートでは、現状がどうなっているかということを知りたい。

意見 孫を持つ人はダメとする。それ以上に図書館アンケートを取る必要があるのか。答えが同じになるのではないか。入学の前に親が、読書について自分の子どものことをどう考えるかということが、学校でのアンケートに出てくるのではないかと思う。

意見 幼稚園・保育園にアンケートを依頼したらどうか。

→ 園にアンケートを依頼するということが、第二次の時のアンケートと同じ範囲で予算

化しているため難しく、今回、応急的な対応として図書館アンケートとして取ることとした。

意見 アンケートは図書館に来る人だけでも良いと思う。

→ 未就学の自分の子どもだけと限定した方が、学校で取ったアンケートと重ならずによりということか。

事務局 今日いただいた意見も含めて、コンサルタント会社にも相談をし、設問をいろいろな形で取れるかということを決めていきたいと思う。

意見 問10の4「特に影響はないと思う」という文言が気になる。本というのは子と親の環境にいろいろな意味で影響を与えると思う。本を読むことによってスキンシップを取ることができた、会話が增えたなど。問10の設問が5つで終わってしまうのは残念だ。

意見 この「特に影響はない」というのは、「わからない」という人がこれを選ぶと思う。

→ 一次計画から設問の文言は変えていない。

意見 本を読んだことによって家庭がどうなったかなど、かなり影響力はあると思う。

質問 保育園は福祉管轄なので、アンケートは頼みにくいのか。

→ それはない。

意見 全園に配布してアンケートを取るほどではない。

→ アンケートを依頼することはできるが、それを集計し解析していくことが一番大変で、今回の委託の中身も、5,000枚取るのでそれを解析してほしいとしていたが、高校生を取ることにしたので7,000枚を超えることになり、それでお願いしている。策定の完了時期も決まっているので、それも含めて再度検討してもよいかと思が、実現するかどうかわからない。

質問 アンケートを取らないと実際の動向が分からないので、図書館に来る就学前の子どもさんに取るということに抑え、現在の子どもと親に限る文言にした方が親もやりやすいのではないかと。問いかけももっとやわらかい言葉で、身近な効果があったのか聞いてみる。影響という言葉がきついと思うので、読み聞かせをやったら子どもにどんな変化があったか、あると思いますかなどの問いにして、国語力がついたなどの文言はやめたらどうか。親が実感して、よみきかせをやったら子どもがこんなに変わったよというものにしたらどうか。

意見 いろいろご意見をお聞きした結果、基本はこのままいっていただき、ご意見が出たところを若干修正していただき、あとはお任せするというでよいと思う。

→ 来週の19日に策定委員会があるので、そこで少し揉んでもらい作っていききたい。

意見 アンケートで実態を調べるというのは無作為抽出である。図書館アンケートは無作為ではない。図書館に来る、関心の高い人を取るアンケートである。第三次の計画のアンケートと一緒にするのは違うと思う。逆に知りたいとも思うが。

意見 今からこれをアトランダムにやるのは難しいのでこのままの計画ですすめ、同じ条件でやったものではないということ承知しておけばよいではないか。

(3) その他

・蔵書点検の結果について

事務局より説明（資料3）

今年度不明だった本は621冊で、開架書庫のものが大部分だった。貸出しがうまくできなくて館外に出て行ったものもあったりで、翌年度には数字が減っている。前年度は1回目不明だった本が1,000冊以上あったため、数字的にはいい成績だったと思う。

質問 今年度は自然科学の本の不明本が減っているがなぜか。

→ なぜかはわからない。前年度何か処理的なミスがあったのかもしれない。また、特異的に興味を持った人が持ち出したのか。3年不明だった本については除籍処理をしているが、そういった本が何年か経って返ってくることもある。

質問 借りに来た人が、この本はないということはあるのか。

→ 機械的に不明として処理をいるので、それはわかる。また、その本が出てきたときはそれもわかるので、不明が消えるようになっている。

質問 延滞している本を返しに来た時、それがいつから借りていたかということはわかるのか。遅れていることには触れずに本をもらうのか。そういった本がある人には手紙を出しているのか。

→ 延滞している本を返却された時には注意する。また、督促はがきは今も出している。

質問 1年も延滞されたときはどうしているか。

→ 3か月以上返却が遅れているときは、利用停止にし、追加で新たに本を借りられないようにしている。

質問 万が一紛失した時は紛失届を出すのか。それともお金を出すのか。

→ 弁償手続きをしていただく。

質問 不明で出てきた本は、通常の貸出しルートで貸出された本ではないよね。「家に返し忘れていた本はありませんか」というような声掛けをして言ったらどうか。

→ そうですね。

質問 大きな図書館では、貸出しをせずに玄関を出るとアラームが鳴ると聞くが、ここには入っていないか。

→ はい。磁気処理とICチップで管理している。ここはそれを入れていない。要望は毎年出しているが、70万冊以上の本にそれを貼って機械を置いてというと、経費があまりにもかかるので、後送りになっている。

事務局 図書館から要望としては出ているが、大変大きなシステムであり、億単位の金額になる。そういったこともあるのと、たくさんの方が来てくださり、たくさんのお本を読んでくださる図書館を私たちは目指したい。本がなくなるという図書館を求めていくのではなく、たくさんの方が来て、広がっていくということを求めるべきではないか。その中で、本がなくなるということに投資をすることも大事だが、現在はそこへの投資は難しい状況である。

意見 駅の近くに図書館を移動させるなどしていただけたらありがたい。

意見 不明になった本が、70万分の621冊が多いのか少ないのか。そこに10億をかけて準備をするのはどうなのかということになる。

事務局 なくなっちはいけない文化財的に貴重な本は開架書架ではなくて別のところに保存しているので、この冊数の不明本は経費の範囲内ではないかと思っている。

意見 以前、閉架書庫の本を出してもらった本はすでに貸出し処理してあると勘違いしてそのまま借りて行ってしまい、返した時に、手続きがしていなかったよと言われたことがある。閉架書庫にある貴重な本もそんなことがあるかもしれないので、ゲートはあったほうがよいのではないか。また、セルフ貸出機で借りていくこともあるが、ピッと鳴ったのでよいかと思ったら手続きができていなかったこともある。

→ ゲートについては、それはごもっともである。閉架書庫の本を手渡す時に、貸出しをお願いしますと声掛けをするとか、なくなる本については、抑止力的に職員が開架書架を回るとかをしていきたい。

・上期の利用状況について

事務局より説明（資料4）

利用状況の数字は、ほぼ前年並みの数字となっている。パソコンについて、今までパソコン室は8席あったが、3階カウンターから目が届かないこともあり、学習室の隣の部屋を10月からパソコン席とした。

・西尾市子ども読書活動推進計画（第3次）について

事務局より説明（資料5）

策定のための体制図とスケジュールを提示。有識者は蔵元和子氏。読書指導、調べ学習のコンクール審査員等をしている。委託業者は図書館総合研究所で、委託金額は204万円。今年度中に原形を作り上げる。来年度、図書館協議会、部会等に挙げ完成を目指す。アンケートは小中学校と高校に依頼する。前回の2次の時の中学校2年生の5年

後が高校2年生になるため前回からの変更を見るため、今回は高校生も対象とした。

質問 前回の委託業者はどこだったか。

→ 第二次までは、内部作成で行い業者には委託を出していなかった。外部からの視点で見た部分が出てくることを期待している。

意見 外部に委託するというのは、西尾市だけでは発想が固まってしまうので、民間の力を借りて別の切り口からご意見をいただくということかと思う。西尾市の特徴を出しながらやっていかなければいけない。三次は来年度からだが、今は二次が進んでいるのだね。

→ はい、第二次は現在、目標に対してどれくらいかと検証をしており、それと同時に第三次に向けて施策を考えている。

・PFI事業図書館分の進捗状況について

事務局より説明（資料なし）

一色学びの館の予定は、平成29年度の4月から8月が実施計画、9月から3月まで改修期間で休館、SPC（特別目的会社）代表会社は西三河エリアワンで、図書館の運営はMICが行う。運営の開始は平成30年4月からとなっている。休館している間は、一色公民館の1階事務室で受け付けができるようになるので、貸出返却、予約本の受け取りができるようにしていく予定。一色学びの館は、29年5月まで(株)図書館流通センターで長期契約をしているが、6月から8月までは継続でお願いできたらということで進めている。今後一色学びの館の運営は指定管理者制度として実施する。図書館としては、業務の内容の調整とモニタリング（事業がうまく進んでいるかの検証と評価すること）計画の作成をしていく。

質問 学びの館は全館休館か。その間、本を公民館に持っていくのか。

→ 図書館部分と資料館部分があり、全館休館という提案がされている。本を公民館に持っていくことは難しいため、新刊本は続けて購入していくので、それを貸出しができるようにすることを考えている。

質問 平成30年の4月からはMICが運営することになるということだが、交流をしながらなのか、評価するということになるのか。

→ 分館機能を並行して行っていくので、業務の調整は常に行っていく。評価も併せて行っていく。

質問 運営するのはMICだが、実際に働く人は今いる人が採用されることもあるのか。

→ 会社が別なので、そこはどうかはわからない。

意見 休館中に一色にある本を予約して借りることはできるのか。

→ それはたぶんできないので、他館の本を取り寄せて回すことになる。

・事務局より次回の協議会の開催について説明

第3回は12月頃を予定

会長により西尾市図書館協議会を閉会した